

社会的つながり強化を

弘大ウェルビーイング総研シンポ



ウェルビーイング研究の重要性について特別講演する
カワチ最高顧問

「す」と語った。

規模での『ウェルビーイング共創社会の実現』を目指

弘前大は国の「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業(J-PEAKS)」の採択を受け、ウェルビーイング領域の先端研究拠点として同研究所を創設。12日の開所式に併せてシンポジウムを開催した。

弘前大副学長で同研究所

副所長の村下公一教授は基

調講演で、大規模住民合同

健診「岩木健康増進プロジ

ェクト」の健康ビッグデー

タを核に構築した基盤など

を紹介。「(弘前大)全学

挙げて研究に取り組む、総

合知」に加え、産学官民金

の連携で地域をはじめ地球

規模での『ウェルビーイン

グ共創社会の実現』を目指

弘 前

参加700人 カワチ最高顧問講演

弘前大学グローバルWellbeing総合研究所開所を記念したシンポジウムが12日、同大創立50周年記念会館で開かれた。会場とオンライン合わせて約700人が参加、同研究所のイチロー・カワチ最高顧問(米ハーバード公衆衛生大学院教授)らの特別講演やパネルディスカッションなどを通して、Wellbeing(ウェルビーイング)心身および社会的に健やかで幸せな状態(研究の重要性に理解を深め、同研究所を拠点に進められる世界トップレベルの研究に期待を寄せた。(稲葉智絵)

ウェルビーイング領域研究の世界的権威であるカワチ最高顧問は同研究の重要性について講演した。

「リモートワークやソーシャルメディアの需要増加など、テクノロジーの進歩が社会的つながりを低下させている」とし、「国家戦略として『所得格差の縮小』『社会的つながりの強化』に取り組み必要がある」と

述べた。パネルディスカッションでは、弘前大が掲げるビジョンの実現に向けて、パネリストから「目指すべき方向性について共通認識を持つべき」「分野を超えた議論が新たな発想を生む」といった意見が出た。